

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-150	小学校	理科	理科	第5学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	理科 506	わくわく理科 5		

1

編修の基本方針

自然に親しみ、自ら問題発見～問題解決し、 未来を切りひらく力を育てるために

国際調査によると、近年、日本の子どもたちは、理科を学ぶことに対する意欲や有用性への認識は改善傾向にありますが、諸外国に比べると、肯定的な回答の割合が低い状況にあります。

小学校理科は、未来を担う子どもたちが初めて出会う科学的思考の場です。これから予期せぬ自然災害や国際課題に直面したとき、科学的な知識をもとに、自ら考え判断して行動する必要があります。また、安全や安心に根ざした科学技術とともに生きることがたいへん重要です。このような状況のもと、次のような編修方針を立てました。



目指す子ども像

自分で考え、いっしょに考え、学ぶ楽しさと
学んだ成果を実感できる子ども

自然に興味をもち、自然から学び、未来にわたって
自然とともに生きる意識をもった子ども

① 主体的に問題解決に取り組み、成長を実感できる教科書

- (1) 「①見つける」→「②調べる」→「③ふり返る」の学習過程で、問題解決の能力が高まります。
- (2) 学習の見通しをもって、主体的に問題解決に取り組むことができます。
- (3) 学習後に自らの成長や学びの深まりを実感できます。

② 理科の基礎学力が身につく、科学的な思考力・表現力が育つ教科書

- (1) 基礎・基本を大切に、理科に必要な知識や技能を確実に習得できます。
- (2) 基礎・基本を応用して、科学的に説明する力が身につきます。
- (3) 自然の事物・現象をとらえる「理科の見方・考え方」を大切に、科学的な思考力を育てます。

③ 学習の有用性を感じ、学び続ける意欲がもてる教科書

- (1) 実社会や実生活との関連を意識させる話題から、学習の有用性を実感できます。
- (2) 自然を愛し、生命を尊重し、環境保全や自然との共生を自ら考える姿勢を育てます。
- (3) 他教科とのつながりや発展的な内容も充実させ、学習をさらに広げ、深めます。

① 主体的に問題解決に取り組み、成長を実感できる教科書

(1) 「①見つける」→「②調べる」→「③ふり返る」の学習過程で、問題解決の能力が高まります。

- 各学年の巻頭に「自然の不思議を、とき明かそう!」を設け、問題解決の全体の流れを把握することができるようにしました。

- ①見つける： **単元導入** (学習のめあて、思い出してみよう、はじめに考えてみよう?)
- ②調べる： **小单元内** (問題解決の過程)
- ③ふり返る： **単元末** (まとめノート、たしかめよう、活用しよう、もう一度考えてみよう!、つなげよう)



〈自然の不思議を、とき明かそう!〉 p.4-5

- 小单元内は問題解決の各過程を大きなロゴで表して矢印で結び、子どもにとっても、教師にとっても、学習の流れをわかりやすく示しました。
- 解決すべき「問題」と観察・実験を通してわかったことの「まとめ」は、同じオレンジ色で示し、対応を明確にしました。
- 混同しがちな結果と考察、結論を区別できるよう「結果」、「結果から考えよう」、「まとめ」と明確に区別しました。
- また、主体的な学習を促すため、「結果」、「結果から考えよう」、「まとめ」は、観察・実験の次の見開きに掲載しました。



〈小单元内の問題解決の流れ〉 p.139-140

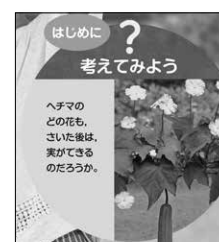
(2) 学習の見通しをもって、主体的に問題解決に取り組むことができます。

- 単元導入** ●「**学習のめあて**」を示し、この単元での学習内容を意識できるようにしました。
- 「**思い出してみよう**」を設け、既習事項や日常経験を確認できるようにしました。

- 小单元内** ●「**問題をつかもう**」では、自然の事物・現象について、子どもどうし話し合いから、「問題」を見つけられるようにしました。
- 「**予想と計画**」では、問題について自分なりの考えをまとめて予想や仮説をもち、積極的に調べる方法を考えることができるようにしました。
- 「**もっと知りたい**」では、わかったことから、新たな問題発見に向かう意欲をはぐくむようにしました。

(3) 学習後に自らの成長や学びの深まりを実感できます。

- 単元末の「**ふり返ろう まとめノート**」では、学習過程をふり返り、知識を整理できるようにしました。
- 単元導入での「**はじめに考えてみよう?**」と同じ問いかけを、単元末に「**もう一度考えてみよう!**」として入れ、学習の終わりに自己評価、相互評価することにより、自己の成長を確認でき、学びの深まりを実感できるようにしました。



単元導入 p.63



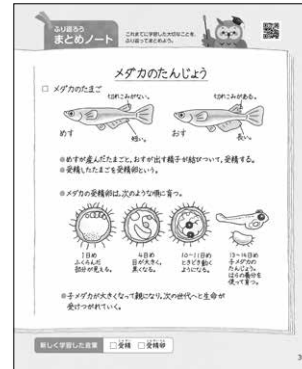
単元末 p.75

② 理科の基礎学力が身につく、 科学的な思考力・表現力が育つ教科書

(1) 基礎・基本を大切にし、理科で必要な知識や技能を確実に習得できます。

学習内容の定着

- 「ふり返ろう まとめノート」では、学習内容をまとめる習慣づけができるようにしました。また、「新しく学習した言葉」と巻末索引で、科学用語の確実な定着を図りました。
- 「たしかめよう」を設け、学習内容が確実に定着するようにしました。



〈まとめノート〉p.39



〈たしかめよう〉〈活用しよう〉p.152

観察・実験などの活動

- 実験を安全に行うため、「みんなで使う理科室」(p.114-117)で、理科室の約束や実験中、実験前後での注意事項の要点をまとめて掲載しました。
- 器具の使い方は、該当箇所ですでに丁寧に解説し、また、いつでも参照できるように、巻末に「器具の使い方」(p.182-187)としてまとめて掲載しました。
- 巻末には「記録カードのかき方」、「ノートのとめ方」、「伝えとぎのまとめ方」(p.176-178)を設け、記録を整理してレポートにまとめ、表現する力が身につくようにしました。

(2) 基礎・基本を応用して、科学的に説明する力が身につきます。

- 単元末に「活用しよう」を設け、図やグラフから必要な情報を読み取って考察する問題を扱い、知識を応用する力や科学的に説明する力が養えるようにしました。これにより、全国学力・学習状況調査の結果により出された課題にも対応しました。
- 「これまでの学習をつなげよう」(p.78-79)では、メダカとヒトの誕生、植物の発芽・成長・結実という複数単元の知識を整理することにより、生命が受けつがれることを深く理解できるようにしました。

(3) 自然の事物・現象をとらえる「理科の見方・考え方」を大切にし、科学的な思考力を育てます。

- 巻末に「5年の理科をふり返ろう ～理科の見方～」(p.172)を設け、領域ごとに特徴的な視点で自然をとらえたことをふり返るようにしました。
- 巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」(p.194-195)では、5年で育成すべき問題解決の力(影響する条件を予想し、問題解決する方法を考える力)を、アルベルト・アインシュタインの考え方や具体的な事例をもとに示しました。



〈5年の理科をふり返ろう〉p.172



〈理科の考え方をはたらかせよう〉p.194-195

③ 学習の有用性を感じ、学び続ける意欲がもてる教科書

(1) 実社会や実生活との関連を意識させる話題から、学習の有用性を実感できます。

- 「理科の広場」や単元末の「つなげよう」などでは、社会や日常生活と関連した内容をビジュアルな紙面で扱い、理科に一層興味をもち、理科を学ぶ有用性を実感できるようにしました。
- 「つなげよう」(p.41ほか)では、学習内容に関連した職業を紹介し、理科の学習が職業につながることを意識できるようにしました。
- 「つなげよう」(p.113)では、街の野球場が大雨のときに一時的に水をたくわえる水槽となる例を紹介し、身の回りに防災への工夫がされていることに気づかせるようにしました。



〈つなげよう〉 p.41



〈つなげよう〉 p.113

(2) 自然を愛し、生命を尊重し、環境保全や自然との共生を自ら考える姿勢を育てます。

- 「雲の観察カード」を巻末につけ、校外学習や家庭学習の機会に、雲の形や量、動きの多様性に触れ、学習を深めることができるようにしました。
- 「日光のめぐみを活用する」(p.28)、「人工光型植物工場」(p.29)、「いろいろな動物のたんじょう」(p.51)、「いろいろな花粉の運ばれ方」(p.76)、「リンゴ農家とマメコバチ」(p.77)などの話題により、全編を通して、生物の共通性・多様性に触れ、また、生命の神秘さや環境保護への意識を高めるようにしました。
- 「風や雨とわたしたちのくらし」(p.56-59)、「雨や雪とわたしたちのくらし」(p.91-92)、「川とわたしたちのくらし」(p.108-110)では、自然の恵みと災害から、自然と人間のかかわりを考えさせるようにしました。

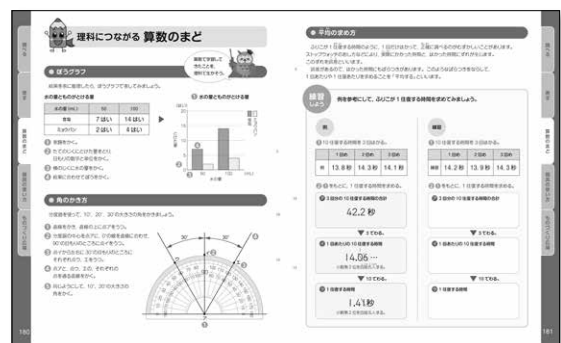


〈雲の観察カード〉 巻末



(3) 他教科とのつながりや発展的な内容も充実させ、学習をさらに広げ、深めます。

- 「理科につながる算数のまど」(p.180-181)では、「ぼうグラフ」「角のかき方」「平均の求め方」を取り上げ、算数の学習内容を理科で生かせるようにしました。
- 「ものづくり広場」(p.188-191)では、学習した知識・技能を活用して、ものづくりを計画し、製作・活動を体験できるようにしました。
- 子どもの興味・関心に応じて、学習内容をさらに深めたり、広げたりできる内容に「はってん」というマーク表示をして扱っています。
- 裏表紙に「保護者の方へ」のメッセージを掲載し、理科の楽しさを家庭でも実感していただけるようにしました。



〈理科につながる算数のまど〉 p.180-181

2

対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号	▶教科書全体にわたって、見通しをもって主体的に観察・実験を行うことを通して、真理を求める態度を育成するようにしています。	全体
幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	▶「理科の考え方ははたらかせよう」で、問題解決の中で物事をとらえる視点や考え方が身につく、豊かな情操を養うことができるようにしています。	p.194-195
	▶「自由研究」「話し合いのしかた」で発表時の話し方・聞き方を扱い、相手の立場に立って行動することの大切さを示しています。	p.60-61, 179
第2号	▶単元導入での「はじめに考えてみよう？」と同じ問いかけを、単元末に「もう一度考えてみよう！」として入れ、自己の成長を確認でき、学びの深まりを実感して自己肯定感が高まるようにしています。	p.11とp.27 p.63とp.75 p.133とp.152など
	▶「理科の広場」や「つなげよう」で、身近な生活に関連した話題を紹介し、理科の有用性や、理科を生かした職業への憧れを感じられるようにしています。	p.41, 90, 95, 153, 170-171
	▶「活用しよう」「これまでの学習をつなげよう」では、知識を日常生活に活用できるようにしています。	p.27, 78-79, 94, 112, 130
第3号	▶男女の役割を固定せず、子ども一人ひとりが主人公で、互いに協力しながら観察・実験を進めている写真やイラストを掲載しています。	p.12, 45, 132, 157など 多数
	▶子どものイラストを描く際には、性別、人種、身体的特徴、さまざまな障害などに十分配慮しています。	p.48, 90, 161, 179など 多数
第4号	▶多くの動植物や自然環境を紹介し、自然の共通性・多様性と豊かさに目を向けるようにしています。	p.17, 21, 51, 76-77, 85
	▶「理科の広場」「つなげよう」で生命の神秘さに触れる話題から、命を尊ぶ心を育てるようにしています。	p.36, 41, 48, 51
	▶生命尊重や環境への意識を高めるよう、「自然を大切に」をマーク表示しています。	p.38, 95, 108, 110, 116
第5号	▶台風や洪水に備えた昔からの家づくりの工夫やくらしの知恵や、伝統的な塩づくりを紹介しています。	p.59, 109, 150
	▶ふりこの単元では、ガリレオ・ガリレイのふりこの等時性の発見の例を導入に用い、世界的な科学者に尊敬の念を感じさせるようにしています。	p.118-119

3

上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

▶ プログラミング教育への対応

発芽の条件、ふりこが1往復する時間、電磁石の強さなどでは、目的に合うように制御する条件を考えて実験を行うようにし、「ものづくり広場」(p.188-191)で計画・製作も体験できるようにしました。また、発芽の条件は、6年のプログラミングのページと同様にタイルを組み合わせた図でまとめました(p.17)。さらに論理的思考を育成するために、メダカとヒトの誕生～成長、植物の発芽～成長は、順序性などについて比べるようにしました(p.78-79)。

▶ 指導書の充実

教科書をより効果的に活用できるよう冊子(朱註冊子、解説冊子ほか)とデータを用意します。

▶ 学習者用デジタル教科書の発刊

紙の教科書と同一内容で、文字サイズや背景色等を変更し、弱視の子どもにも読みやすくなります。また、すべての文字にふり仮名を付す機能も搭載し、漢字が苦手な子どもへの支援も行います。文章の読み上げも可能です。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-150	小学校	理科	理科	第5学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
61 啓林館	理科 506	わくわく理科 5		

1 編修上特に意を用いた点や特色

5年の 特色

影響する条件を予想し、問題解決の方法を
考える力が身につくようにしました。

1 種子が発芽する条件

植物の種子が芽を出すことを発芽といいます。

**問題を
つかもう**

これから始めるから、種子が発芽するには、
どんなことが必要かを考えてみましょう。

たねをまいた後、
水をやったよ。
水は必要だね。

日光が当たって
あたかくなるから、
芽が出ると思う。

インゲンマメの発芽

土の中でも発芽するから、
日光は必要ないと思う。

土はどのくらい、でも、
かいいた土は、
土がなくても、
芽が出るね。

ヒトは思っているよ。
種子にも発芽が必要
なものかな。

考えた条件の中から、実験で調べることを
決めよう。

水と発芽 温度と発芽 空気と発芽

発芽には、水が必要。 発芽には、適切な温度が必要。 発芽には、空気が必要。

水と発芽について、計画を立てて調べてみましょう。

問題 種子が発芽するには、水が必要なのだろうか。

p.12

p.12 学んだことから、
種子が発芽する条件に
ついて、予想を立て、
実験を計画する場面を
示しています。

p.122 ふりがが1往復
する時間を調べるとき、
条件を制御しながら学習
を進めるようにしてい
ます。

問題 ふりはばを変えると、1往復する
時間は変わるのだろうか。

計画

変える条件	同じにする条件
ふりはば (10°, 20°, 30°)	● おもりの重さ (10g) ● ふりこの長さ (50cm)

みんなで結果を比べるために、
ふりはばの定義方は
そろえておこう。

ふりがが1往復する時間の求め方

ふりがが1往復する時間は、何度かの測定結果を、
平均して求める。

ストップウォッチを必ず
タイマーで確認してあげよう。
実験では、小数第2位を
四捨五入して、小数
第1位まで記録しよう。

◎ 団体5人は4年生の算数で
学習したね。平均の
求め方は、181ページの
「算数のまど」も見よう。

ふりはば (°)	10往復する時間(秒)			10往復する 時間の合計(秒)	1回あたりの10往復 する時間(秒)	1往復する 時間(秒)
	1回目	2回目	3回目			
10				÷3	÷10	
20				÷3	÷10	
30				÷3	÷10	

p.122

p.58「風や雨とわたしたちの暮らし」で
は、自然災害への日頃の備えや地域の
ハザードマップなどを掲載し、防災の
意識を高めています。

日ごろの備え

防災グッズを準備しよう。

避難する場所や安全な
場所をあらかじめ確認しよう。

家族の避難のことは、
地元の消防団の人に話を聞いて、
家族みんなで確認しよう。

避難するときは、
おしるしを準備しよう。
おしるしは、避難するときに
おしるしを準備しよう。

ハザードマップ

過去の自然災害の例などから、
その地域の危険を予想して地
図に表したものを、ハザードマ
ップといいます。洪水や土砂災害
など、いろいろな自然災害に対
するハザードマップが、日本各
国でつくられています。
自分たちが住んでいる地帯に
ては、どんなことに特に注意す
ればよいのか、ハザードマ
ップを使って調べてみましょう。

洪水ハザードマップ(東京都荒川区)

p.58

ICTの活用

紙面にQRコードを掲載
し、学習内容と関連する
参考情報をタブレット
パソコンやスマートフォン
などで閲覧できるように
しています。学習意欲を
高め、家庭で主体的に学習
する際にも、参考になる
ようにしています。

問題 実際の川でも、流れる場所によって、
川のようにちがいがあのだろうか。

資料調べ

川の流れる場所によるちがい

1 山のや、平地、海や湖の近くで、川やその流れの
ちがいをどのように変化しているか、
写真や図表で調べよう。
● 山の上では、流れが速い。谷間は、
● 谷間は、流れが速い。谷間は、
● 谷間は、流れが速い。谷間は、

2 流れる水のしん・速さ、たいはくのはたらき、
場所によって、どのように変化しているかを考える。

山の上では、流れが速い。谷間は、
谷間は、流れが速い。谷間は、
谷間は、流れが速い。谷間は、

山の上では、流れが速い。谷間は、
谷間は、流れが速い。谷間は、
谷間は、流れが速い。谷間は、

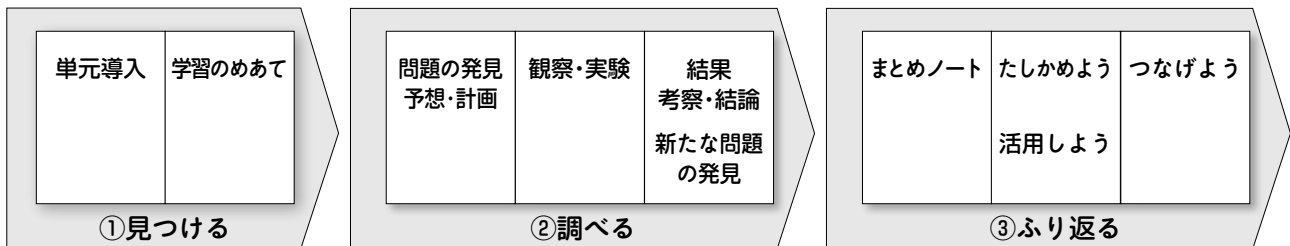
山の上では、流れが速い。谷間は、
谷間は、流れが速い。谷間は、
谷間は、流れが速い。谷間は、

p.105



紙面の特色 子どもの学びやすさ，教師の指導しやすさを大切にした紙面構成です。

学習の流れ



① 单元導入



p.96-97

「学習のめあて」を示し、見通しをもって学習に入ることができます。

「思い出してみよう」により、既習事項や日常経験を確認し、主体的に取り組む姿勢が養われます。

「はじめに考えてみよう?」と同じ問いかけを、単元末に「もう一度考えてみよう!」として入れ、自己評価、相互評価できるようにしています。

② 問題の発見・予想計画 観察・実験



p.98-99

「問題をつかもう」では見つけた「不思議」について、子ども
どうしの話し合いから問題を見つけることができます。

観察して記録するポイントを緑色の丸で示しています。

「予想と計画」は、「問題」について自分なりの考えをまとめて
結果を予想し、調べる方法を計画する場面です。

② 結果・考察・結論 新たな問題の発見



p.100

主体的な学習を促すため，「結果」，「結果から考えよう」，「まとめ」は，観察・実験の次の見開きに掲載しました。

結果をノートにまとめる例を示しています。

以上、問題解決の過程をフローチャートのように矢印で結んだ
すっきりとしたレイアウトにより、**子どもにとっても、指導経験
の浅い教師にとっても、問題解決の流れがわかりやすい紙面**です。

③「**ふり返る**」の過程は、「**教育基本法との対照表**」のp.3,4参照

◆観点別特色

観点	留意点	該当箇所
教育基本法 および 学習指導要領の 遵守	教育基本法および学習指導要領を遵守するため、次の編修方針を立てています。	全体
	▶主体的に問題解決に取り組み、成長を実感できる教科書	
	▶理科の基礎学力が身につく、科学的な思考力・表現力が育つ教科書	
	▶学習の有用性を感じ、学び続ける意欲がもてる教科書	
主体的・対話的で 深い学び	▶「①見つける」→「②調べる」→「③ふり返る」の学習過程で、問題解決する能力が高まります。	全体
	▶単元導入に「思い出してみよう」、単元末には「ふり返ろう まとめノート」を設け、学習のつながりや、ふり返りを強調し、より主体的に取り組むことができるようにしています。	p.11とp.25、p.80とp.93、 p.154とp.167など
	▶「問題」の前に「問題をつかもう」を適宜入れ、子どもどうし話し合いから「問題」を見つけられるようにしています。	p.12、86、121、145など
	▶実験の予想・計画の場面や結果から考察する場面では、協働的な活動の場面を設け、深い学びにつながるようにしています。	p.16、22、48、128、136など
	▶巻末の「話し合いのしかた」では、話すときと聞くときの要点を例示しています。	p.179
学びの見通し・ ふり返り	▶単元導入での「はじめに考えてみよう?」と同じ問いかけを、単元末に「もう一度考えてみよう!」として入れ、学習内容の習得を実感でき、自己成長を確認できるようにしています。	p.11とp.27、p.63とp.75、 p.133とp.152など
	▶単元導入に「学習のめあて」を設け、単元での学習内容を意識して単元の学習に入るようにしています。	p.7、31、81、118など
	▶単元末の「ふり返ろう まとめノート」では、学習過程をふり返り、知識を整理できるようにしています。	p.39、74、129、151など
基礎・基本の 定着 学力向上	▶単元導入に「思い出してみよう」を設け、既習事項や日常経験を確認することができるようにしています。	p.6、62、80、154など
	▶単元末に「ふり返ろう まとめノート」を設け、学習内容をまとめる習慣づけができるようにし、「新しく学習した言葉」と巻末索引で、科学的用語の確実な定着を図っています。また、「たしかめよう」を設け、学習内容が確実に定着するようにしています。	p.25-27、39-40、129-130、 167-168など
	▶単元導入および単元末にQRコードを表示し、リンクするデジタルコンテンツにより、学習前に必要となる知識、および学習後の基礎知識の確認ができるようにしています。	p.62とp.74、p.96とp.111、 p.154とp.167
発展的な学習	▶興味・関心に応じて、次学年以降の学習内容など、学習をさらに深めたり広げたりできる箇所に、「はってん」のマークを表示しています。	p.38、108、190など
資質・能力の 育成	▶単元末の「活用しよう」では、図表やグラフから情報を読み取る問題などを数多く扱うことで、思考力を高めるようにしています。これにより、全国学力・学習状況調査の結果により出された課題にも対応しています。	p.40、75、152、169など
	▶「これまでの学習をつなげよう」では、複数単元の知識を整理して全体を関連づけて思考する力がつくようにしています。	p.78-79
	▶問題解決の過程のつながりを大切に、「まとめ」の後に「もっと知りたい」と入れ、わかったことから話し合いを通じて、新たな問題発見に向かう力を養うようにしています。	p.140
理科の見方・ 考え方	▶学年全体を通して「条件制御する」という観点をもとに、問題解決の方法を考え、表現することに重点を置いています。	p.12、121、139、161など
	▶巻末に「5年の理科をふり返ろう ～理科の見方～」を設け、領域ごとに特徴的な視点で自然をとらえたことをふり返るようにしています。	p.172
	▶巻末に「理科の考え方ははたらかせよう」を設け、各学年で育成すべき問題解決の力を、偉人からのメッセージや具体的な事例などをもとに示しています。	p.194-195

観点	留意点	該当箇所
理科の有用性、 キャリア教育	▶「理科の広場」や単元末の「つなげよう」では、社会や日常生活と関連した内容をビジュアルな紙面で扱い、理科に一層興味をもち、理科を学ぶ有用性を実感できるようにしています。	p.21, 28-29, 76-77, 170-171など
	▶「つなげよう」では、学習内容に関連した産業・職業も紹介し、理科の学習が職業につながることを意識できるようにしています。	p.41, 95, 153など
観察・実験などの活動	▶実験を安全に行うため、「みんなで使う理科室」で、理科室の約束や実験中、実験前後での注意事項の要点をまとめて掲載しました。	p.114-117
	▶全般にわたって、「注意マーク」の注意文のほか、「やけど」、「保護眼鏡」などの注意に、視覚的にわかりやすい共通の安全マークを設けています。	実験全般
	▶荒天時や増水時などの野外の活動での注意も、もれなく示しています。	p.53, 103, 雲の観察カード
	▶器具の使い方などの箇所にQRコードを表示し、デジタルコンテンツにより、基本的な使い方や注意事項を学ぶことができるようにしています。	p.35, 67, 138, 147
内容・配列・分量	▶子どもが自ら活動し、ゆとりをもって問題解決学習を行うのに適切な時数の配分としています。(標準時数105に対して、配当時数95, 予備の時間10)	
	▶特にB区分の単元については、系統的な順序性を確保した上で、季節的な不都合が生じないように、野外観察や飼育・栽培に適した時期に配当しています。また、「台風と気象情報」を夏休み前に設定し、台風などの気象情報を自ら意識できるようにしています。	
他教科との関連	▶「理科につながる算数のまど」の「ぼうグラフ」、「角のかき方」、「平均の求め方」では、算数との関連を意識させています。	p.122, 123, 142, 162, 180-181
	▶「種子にふくまれる養分」では、家庭科での栄養素の学習との関連を、「雪の多い地いきでの暮らし」では、社会科での日本海側の気候の学習との関連を、「ヒトの受精卵」では、保健での思春期の体の変化の学習との関連を意識させています。	p.21, 44, 90
評価	▶単元導入での「はじめに考えてみよう?」と同じ問いかけを、単元末に「もう一度考えてみよう!」として入れ、学習の終わりに自己評価・相互評価ができるようにしています。	p.11とp.27, p.63とp.75, p.133とp.152など
カリキュラム・マネジメント	▶単元導入に「思い出してみよう」を設け、既習事項や日常経験を確認した上で学習に入ることができるようにしています。	p.11, 31, 42, 96など
	▶「これまでの学習をつなげよう」を設け、複数の単元にまたがる学習内容の知識を整理して関連づけることができるようにしています。	p.78-79
今日的な課題への対応、 持続可能な開発のための教育(ESD)、 環境、防災・減災	▶「理科の広場」、「つなげよう」では、生物の共通性・多様性や生命の神秘さを実感できる話題を紹介し、自然環境への意識を高めるようにしています。	p.17, 36, 48, 51, 76-77
	▶「風や雨とわたしたちの暮らし」、「雨や雪とわたしたちの暮らし」、「川とわたしたちの暮らし」では、自然の恵みと災害から、防災への意識を高め、自然と人間のかかわりを考えさせるようにしました。	p.56-59, 91-92, 108-110
	▶「つなげよう」でも、地域の防災に関するテーマを扱いました。	p.113, 131
	▶生命尊重や環境保護を意識するよう、「自然を大切に」をマーク表示しています。	p.24, 37, 38, 108, 110, 116
特別支援教育 などへの対応	▶観察・実験の手順を矢印で結ぶ、本文やキャラクターのセリフを意味改行するなど、特別支援教育の専門家の監修のもと、すべての子どもたちが支障なく学習できるインクルーシブ教育に配慮しています。	全体
	▶文字のフォントは、すべてUDフォントを採用し、視認性と可読性を高めています。	UD FONT
	▶色覚の個人差を問わず、紙面の内容が判別しやすい配色・デザインを用い、メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD)による認証を申請中です。	 MUD
	▶学習者用デジタル教科書や拡大教科書を用意し、子どもたちの様々な学習の仕方に対応できるようにしています。	
人権、福祉、 国際理解、 ジェンダーへの 配慮	▶子どもの写真やイラストについては、男女の役割を固定せず、互いに協力しながら積極的に活動していることを含めて、性別・人種・身体的特徴に十分配慮しています。	p.12, 48, 157, 179など
	▶ふりこの単元では、ガリレオ・ガリレイのふりこの等時性の発見の例を紹介し、世界的な科学者に尊敬の念を感じさせるようにしています。	p.118-119

観点	留意点	該当箇所
プログラミング学習	▶発芽の条件、ふりこが1往復する時間、電磁石の強さなどでは、目的に合うように制御する条件を考えて実験を行うようにし、「ものづくり広場」で計画・製作も体験できるようにしました。また、発芽の条件は、6年のプログラミングのページと同様に、タイルを組み合わせた図でまとめました。	p.17, 122, 161, 188-191 など
	▶メダカとヒトの誕生～成長、植物の発芽～成長は、順序性などについて比べるようにしました。	p.78-79
ICTの活用	▶単元の始まりと終わりははじめとして、紙面にQRコードを掲載し、学習内容と関連する参考情報をタブレットパソコンやスマートフォンなどで閲覧できるようにしています。学習意欲を高め、家庭で主体的に学習する際にも、参考になるようにしています。	p.11, 25, 41, 51, 134
	▶コンピュータなどの活用に適した箇所には、「デジタル」マークをつけ、積極的な利用を促しています。	p.45, 53, 61, 105, 175
家庭学習への対応、家庭や地域との連携	▶「雲の観察カード」を巻末につけ、校外学習や家庭学習の機会に、雲の形や量、動きの多様さに触れることができるようにしています。	巻末
	▶巻末の「調べる」のページでは、図書館や博物館、科学館などを積極的に活用するようよびかけています。	p.174
	▶裏表紙に「保護者の方へ」のメッセージを掲載し、理科の楽しさを家庭でも実感していただけるよう配慮しています。	裏表紙
文字・用紙・印刷・製本	▶軽量で印刷が鮮明な用紙や、AB判でも開きやすく強度も保てる「あじろ綴じ」を採用しています。また、植物油インキや再生紙を使用することでアレルギーや環境にも配慮しています。	

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
自然を読みとく	B	巻頭	1(1)
○ 花のつくり	B(1)ア(エ), イ	p.6-9	2(2)
1. 植物の発芽と成長	B(1)ア(ア) (イ) (ウ), イ	p.10-29	13(14)
2. メダカのたんじょう	B(2)ア(ア), イ	p.30-41	7(8)
3. ヒトのたんじょう	B(2)ア(イ), イ	p.42-51	6(7)
○ 台風と気象情報	B(4)	p.52-59	3(4)
○ 自由研究	A, B	p.60-61	2(2)
4. 花から実へ	B(1)ア(エ), イ	p.62-77	8(9)
○ これまでの学習をつなげよう	B(1) (2)	p.78-79	1(1)
5. 雲と天気の変化	B(4)	p.80-95	7(8)
6. 流れる水のはたらき	B(3)	p.96-113	11(12)
○ みんなで使う理科室	A(1) (2)	p.114-117	1(1)
7. ふりこのきまり	A(2)	p.118-131	6(7)
8. もののとけ方	A(1)	p.132-153	15(16)
9. 電流と電磁石	A(3)	p.154-171	12(13)
○ 5年の理科をふり返ろう ～理科の見方～	A, B	p.172	
○ フムロウ博士の資料室	A, B	p.173-192	
○ 理科の考え方をはたらかせよう	A, B	p.194-195	
○ 雲の観察カード	B(4)	巻末	

計 95
(標準時数105)

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-150	小学校	理科	理科	第5学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	理科 506	わくわく理科 5		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
8	めしべをたてに切ったところ	1	理科第5学年 B(1)ア(エ)	0.25
38	淀川のイタセンパラ	1	理科第5学年 B(2)ア(ア)	0.50
59	水を運ぶ台風	2	理科第5学年 B(4)ア(イ)	0.25
90	冬の日本海側	1	理科第5学年 B(4)ア(イ)	0.25
108	川の生物がすみやすいように くふうされた護岸	2	理科第5学年 B(3)ア(ウ)	0.25
190	コイルモーター	1	理科第5学年 A(3)ア(ア) (イ)	0.50
合 計				2.00

(「類型」欄の分類について)

1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容(隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む)とされている内容

2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容